

「共に生きる」～利用者と共に・地域と共に・仲間と共に～

し
ゅ
う
ざ
ん

高齢者総合福祉施設 しゅうざん
施設長 溝口 武美

社会福祉法人北桑会は昭和 56 年に設立、翌 57 年に現在の右京区京北上中の地に特別養護老人ホーム豊和園を開設いたしました。その後、現在の南丹市美山町島の地に特別養護老人ホーム美山やすらぎホームを開設し現在、豊和園、美山やすらぎホーム共に高齢者総合福祉施設となり、地域福祉の拠点施設として多くの方々にご利用をいただいている所です。



今回、行政をはじめ、関係者の多くのお力添えをいただき、開所を迎えました「高齢者総合福祉施設 しゅうざん」は現行の高齢者総合福祉施設 豊和園のサテライト施設として、右京区京北周山町の地に地域密着型の施設サービスを中心に短期入所生活介護、認知症対応型通所介護などの在宅サービスも併設して開設いたしました。

施設サービスは地域密着型介護老人福祉施設（ユニット型個室）29 名と在宅サービスの短期入所生活介護（ユニット型個室）10 名、通所介護 12 名で、これまで以上に更に地域の要介護者の幅広いニーズに対応をしてまいりたいと考えております。

自然環境豊かな京北の地で、ご利用者に四季のうつろいを実感していただきながら、ご利用者個々の生活リズムと個々の希望に対応できる施設環境により、きめ細かなケア、寄り添えあえるケアの提供を常に心がけ、自立支援に向けた質の高い個別ケアに努めたいと

<施設概要>

法人名 社会福祉法人 北桑会
施設名 高齢者総合福祉施設 しゅうざん
管理者 溝口 武美
開設日 平成 25 年 8 月 1 日
事業内容 ○地域密着型介護老人福祉施設 しゅうざん（ユニット型個室 29 名）
○短期入所生活介護事業所 しゅうざん（広域型 ユニット型個室 10 名）
○しゅうざん デイサービスセンター（認知症対応型 12 名）
所在地 〒601-0251
京都市右京区京北周山町馬場瀬 10-4
電話 075-852-5220
(介護老人福祉施設・短期入所生活介護)
075-852-5222
(デイサービスセンター)
F A X 075-852-5221
U R L hokusoukai.com/

考えています。

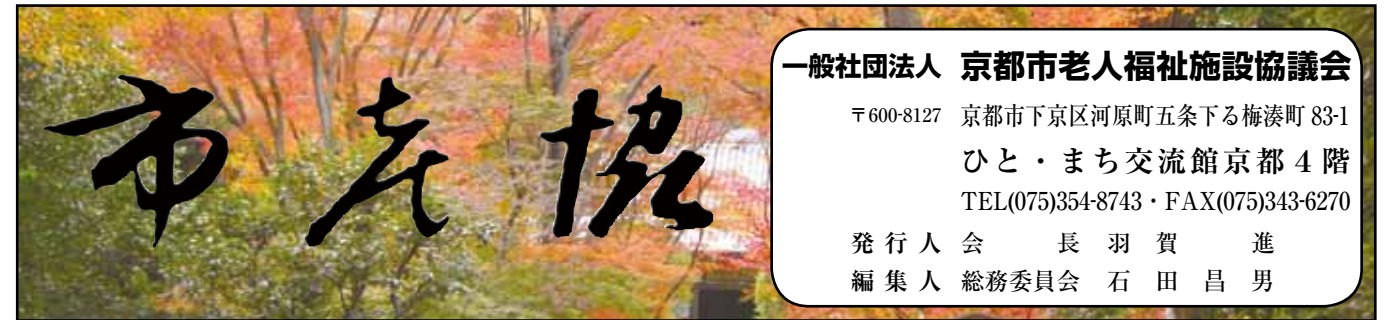
また、今回のこの「高齢者総合福祉施設 しゅうざん」は山河、自然豊かな京北の地にふさわしく、再生可能エネルギーをふんだんに取り入れ、太陽熱を利用した給湯設備と、地元の木質ペレットを燃料とするペレットボイラーを導入し、給湯や床暖房などに利用するハイブリッド的なエネルギーシステムを装備し、国内でも大変珍しく、環境面でも大変やさしい施設となっています。



過疎化と高齢化が進む中、ユニット型個室の施設サービスの充実と、幅広い在宅サービスの提供で、高齢化による日々の問題、将来に対する不安を少しでも解消するお手伝いができればと考えています。また今回の「しゅうざん」には多目的にご利用をいただけるスペースも備えており、地域の中の施設として、地域と共に歩む組織づくりや、地域とのネットワークづくり、行事参加も積極的に行いたいと考えています。

当法人の経営理念である「共に生きる」のもと、今後も運営推進会議等を通して地域や関係機関のご意見もお聞きし、地域から必要とされる施設になれるよう、役職員が共に努力を重ね、初心にかえり更に業務に励んでまいり所存でございます。

どうぞ今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。



住み慣れた地域での高齢者の健やかな暮らしのため、全力で取り組んでまいります。

京都市保健福祉局
保健医療・介護担当局長
瀧本 章



一般社団法人京都市老人福祉施設協議会の皆様におかれましては、ひとり一人の高齢者の健やかで尊厳ある暮らしのため、心身の疲れも厭わず、また、創意工夫を凝らした取組を通じて、丁寧で心のこもった、世界の先進とも誇れる質の高い福祉サービスを提供されていることにつきまして、深く敬意を表します。

また、日頃から、ユニットケア研修や介護の日記念事業、各種調査研究事業、人材育成等の取組を担っていただくと同時に、貴協議会役員と本市職員によるプロジェクト会議の開催を通じて様々な御提言をいただくなど、本市の高齢者福祉施策の推進に大きな力をいただいております。

とりわけ、昨年度におきましては、災害時に高齢者等の要配慮者の命を守る砦となる福祉避難所の設置につきまして、貴協議会の御協力により、86箇所もの貴協議会傘下の施設を事前指定させていただくことができました。今年度につきましても、福祉避難所の実施体制のさらなる充実や、高齢化の進展と人材不足により喫緊の課題となっている福祉人材の確保について、貴協議会と協調しながら取り組んでまいりたいと考えておりますので、より一層のお力添えをお願い申し上げます。

さて、高齢者の皆様が住み慣れた地域で健やかに暮らし続けることができる社会の実現を目指す「京都市版地域包括ケアシステム」の構築を最重点項目に掲げ、平成 24 年 3 月に策定しました「第 5 期京

都市民長寿すこやかプラン」は、貴協議会の皆様をはじめ関係各位の御協力をいただき、計画初年度の昨年度については、着実な一歩を踏み出すことができました。

今年度につきましては、早くも 3 年間の計画期間の折り返しの年ということで、プランの最終年度に向け、各施策の実施をさらに加速させていく必要があります。その一方で、8 月には、社会保障制度改革国民会議の報告書が取りまとめられ、介護保険制度改革を始めとした高齢者福祉施策の今後の方向性が明らかになってきており、こうした動向への対応が新たな課題となっております。

こうした動向を見極めつつ、プランの目標を実現していくためには、貴協議会の皆様が高齢者福祉の最前線で汗と涙、笑顔を通じて培われてこられた深い知見と、現場からの力強い御提言に学ばせていただくことが不可欠であると考えております。

今後も、貴協議会の皆様との確実な連携の下、高齢者福祉のさらなる充実のため、全力で取り組んでまいりますので、皆様の一層の御支援と御協力をお願い申し上げます。

結びに、貴協議会の皆様方のますますの御発展、並びに皆様の御健勝、御多幸を心からお祈り申し上げます。

福祉関係の学校等と協働した専門職の育成の取り組み

福祉介護人材プロジェクト

河合 悟（ケアハウス サウスヴィレッジ向島 施設長）



今年で第 6 回目を迎える「高齢者福祉施設における人材の確保と養成に関する懇談会（以下、懇談会）」が平成 25 年 7 月 30 日、ホテル日航プリンセス京都に於いて開催されました。



この懇談会は、平成 20 年度より一般社団法人京都市老人福祉施設協議会（以下、市老協）福祉介護人材プロジェクトが中心となり、高齢者福祉施設における人材の育成、確保等について、養成校等の関係学校や京都府および京都市、京都府社会福祉協議会等の関係団体の方々との意見交換を目的に始めました。

懇談会は、福祉分野で働きたいと希望する学生と日頃から関わりのある京都市内の主な福祉系大学、専門学校等の養成校の関係者の皆さまに毎年、多くのご参加を頂き、市老協として高齢者福祉施設が抱える人的な課題を育成側の方々で連携して検討する良い機会でもあります。

一例を上げると、大規模な法人や施設の場合、新人職員へ対する入職時の研修の整備は進んでいます。が、小規模の場合、新人職員であったとしても人員不足であるため、簡単な研修を受け、入職直後でありながら現場に入らざるを得ない状況も生じています。懇談会において福祉人材の育成を考えた時、新人職員の質の担保の為には市老協が担うことも必要ではないかとの意見を頂いています。

このような施設の状況やご意見を基に昨年度、新

人職員を対象とした研修会を市老協にて開催いたしました。あわせて、研修において施設や法人の枠を超えた施設間のヨコのつながりやハートメッセージの重要性も伝えることができました。

「ハートメッセージ」は市老協独自の取り組みで、平成 20 年度より介護職の広報担当として活動を開始し、現在は市老協会員施設の職員 115 名を委嘱し、広報活動に携わっています。

このように毎年、懇談会にて検討した課題を次年度の活動に反映し、画餅とならないよう取り組んでいます。

また、別の意見では学生の福祉に対するイメージは未だに変わっていない、施設が情報発信をしているつもりでも発信しきれていないのが現状。

学生と年齢の近いハートメッセージが介護の仕事の魅力、さらには自分自身のキャリアパスを語る事が出来れば、本当の意味でイメージを変えるきっかけとなるのではないかとのご意見を頂き、学校関係の方々のご協力でハートメッセージが介護の仕事の魅力について大学や専門学校等で紹介できるような場の確保に取り組んでいます。

市老協福祉介護人材プロジェクトは懇談会を通じて、次世代を担う職員を育成、確保するため学校教員、就職担当、施設採用担当、ハートメッセージ等が協働して取り組んでいけるような活動の場作りを目指していきます。

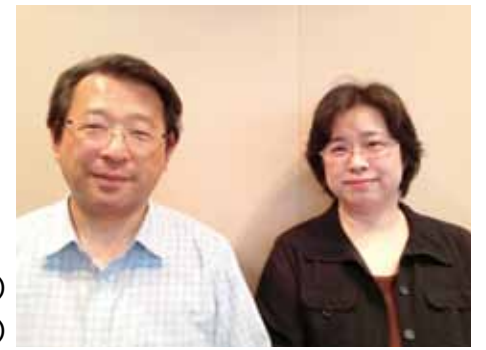


文責 高齢者福祉総合施設 ももやま 関口洋明

～ 介護福祉士ファーストステップ研修～

人材育成プロジェクト

真辺 一範（嵐山寮特別養護老人ホーム うたの施設長）
澤田恵美子（特別養護老人ホーム 京都厚生園施設長）



現在の高齢者介護は「小規模ケア」が主流になりつつあります。小規模ケアにおいて重要な役割を果たすのは小グループをまとめるリーダー役の存在です。

市老協人材育成プロジェクトでは、平成 21 年度より「ファーストステップ研修」を開催しています。

この研修は、介護職員で小グループによるチームのリーダーあるいはその候補者を対象とし、様々な立場でのケアの理念、実務環境の違いによる経験・能力の違いを補完し、チームリーダーとして共通の能力基盤を確立することを目的としています。具体的には、「個別ケア領域（72 時間）」、「チームケア・連携領域（48 時間）」、「チームの運営管理基礎領域（80 時間）」のそれぞれの領域を計 200 時間、半年以上かけて学習します。そのうちスクーリングは 13 日間です。

国レベルにおいて、介護保険制度見直しの中の課題として、高齢者介護分野の介護福祉士のキャリアアップ施策について数年にわたり検討されてきました。その一つの施策がファーストステップ研修です。介護福祉士取得後 2～3 年後の介護職員を対象とし、介護老人福祉施設・認知症対応型生活介護・訪問介護・通所介護・小規模多機能型居宅介護などの多様な事業種類を問わず「質の高い小規模ケア」を実施するための「小グループリーダー」の基本的能力開発と位置づけています。

教材や演習プログラムは、全国社会福祉協議会認定ファーストステップ研修のモデル事業を当初から担ってきた特定非営利活動法人介護人材キャリア開発機構（理事長：山田尋志）の内容に準拠しています。

実際の介護場面の映像などを教材とした演習、介護場面や部下へのコーチングを題材としたロールプレイなどの新しい研修手法を取り入れ、ケアの基礎となる「尊厳」や「倫理」の理解、個別ケアに必要な

なコミュニケーションの理解と実践について、効果的なプログラムとなっています。

市老協ファーストステップ研修の講師は、市老協所属施設の職員で、ファーストステップ研修の講師養成研修を修了した者が担当しています。講師陣は、研修開催当初からリーダー的存在である杉原優子さん（十四軒町の家）の助言指導の下、澤田恵美子さん（京都厚生園）、村田麻起子さん（きたおおじ）、西村優子さん（きたおおじ）、寺本寿美さん（京都市桂川園）、阪田耕三さん（静原寮）、居合由紀さん（西七条）、嶋田陽樹さん（同和園）、西野栄里子さん（嵐山寮）が担当しています。また、事務局として市老協職員の内田さんと大庭さんが研修事業を支えています。

この研修は、全領域で 13 日間に及ぶ長丁場のトレーニングです。各科目において事前課題、事後課題があり、大変ハードな研修ではありますが、参加者から以下の声をいただいています。

- ・ 尊厳や倫理、パーソンセンタードケアというぶれない軸を自分やチームの中に据え、どう行動するのかをチームで考えて行きたい。
- ・ 今まで職場の中で、課題を感じていても忙しさを理由に声に出せず流していた。これからは課題を具体的にチームに伝え、考え、できることから行動を変えたい。
- ・ この研修内容は、リーダーだけではなく管理的な職員層も学ぶ必要がある。
- ・ 他施設の職員とのつながりができた。
- ・ 所属事業所の職員として、逃げずに頑張ろうと思った。

研修を通してまさに専門職として確実な成長を遂げていることが伺われます。各施設におかれましては、受講者の後方支援と今後の運営のご協力を是非ともよろしくお願いします。

『地域から要望され活用される施設を目指して』

そ
ら
の
木

特別養護老人ホーム そらの木
施設長 伊藤 禎哉

平成 25 年 6 月 1 日に山科区大宅に開所いたしました、社会福祉法人レモンガラス「特別養護老人ホームそらの木」です。



当施設は地下鉄東西線「柳辻」駅から徒歩 10 分の住宅地に立地し、地域との関わりを大切に「地域から要望され活用される施設」を目指します。

近隣には保育園・小学校・中学校・大学が点在し、それぞれの機関との協力・連携を図り、子供から高齢者まで世代を超えた交流の場としての施設開放を行っています。



<施設概要>

施 設 名 特別養護老人ホーム そらの木
管 理 者 伊藤 禎哉
所 在 地 〒 607 - 8181
京都市山科区大宅打明町 15
電 話 0 7 5 - 5 0 2 - 1 0 3 0
F A X 0 7 5 - 5 0 2 - 1 1 5 1
事業内容 ・特別養護老人ホーム
90 名 (10 ユニット)
・短期入所生活介護
18 名 (2 ユニット)
・デイサービス
15 名

施設名の「そらの木」は、法人が設立された平成 24 年に「スカイツリー」が開業したことに因んでいます。当時暗澹たる日本の社会情勢の中、明るい話題をもたらした「スカイツリー」にあやかって、「そらの木」が地域に明るい話題を提供できるように願って理事長が命名しました。

また法人名の「レモンガラス」に因んで、ユニット名は全てハーブの名前がつけられています。屋上には緑化の一環として、レモンガラスをはじめとする各種ハーブが植えられており、時期折々ハーブを摘んでハーブティーにしたり料理に使用してご利用者にも提供します。

当施設は新規オープンであることと若い職員が多いことから、ご利用者と一緒に創り上げていく施設として、「人としてあたり前の生活をあたり前に」をコンセプトに日々努めてまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。



生涯地域居住をめざし、
利用者が主役であり続けられる施設にしたい

健
光
園
あ
ら
し
や
ま

高齢者福祉総合施設 健光園あらしやま
施設長 北尾 勝美

健光園あらしやまは、嵯峨大覚寺前にある健光園から特別養護老人ホームやデイサービスセンターなどが移転してできた施設です。



入居者一人ひとりにとって、ご自分の家であることにこだわり、入居者が主役であり続けられるところにしたいと思っています。



<施設概要>

施 設 名 高齢者福祉総合施設 健光園あらしやま
管 理 者 施設長 北尾 勝美
所 在 地 〒 616 - 8363
京都市右京区嵯峨柳田町 3 6 番 5
電 話 0 7 5 - 8 8 1 - 2 2 1 1
F A X 0 7 5 - 8 8 2 - 3 3 9 9
事業内容 ①特別養護老人ホーム 99 名 (10 ユニット)
②短期入所生活介護 21 名 (2 ユニット)
③デイサービスセンター 36 名
④診療所 (在宅療養支援診療所)
⑤ケアプランセンター
⑥ヘルパーステーション
⑦訪問看護ステーション
⑧カフェ「ジョイント・ほっと」
⑨地域交流スペース「あの音 (ね)」

そのために、居室内にトイレを設置し、自立支援に配慮すると共に、「青森ひば」製の浴室では、「ひとり浴」を全国の施設に広げておられる介護アドバイザー青山幸広さんのアドバイスを受け、「リフト浴」や「機械浴」を使わず、しかも入居者ご本人の自立性を促すような介助を行っています。

また、在宅療養支援診療所、訪問看護ステーションやデイサービス、ホームヘルプサービスなどを備え、医療と介護の連携、在宅サービスと施設サービスの連携のもと、住み慣れた地域・住まいで最期まで暮らし続けていただける支援を目指しています。

さらに 4 階に設置した地域交流スペース「あの音 (ね)」を活用し、カフェの営業やコンサートの開催、絵手紙や詩吟の教室運営など、地域の皆さまと入居者が一緒に楽しめる「開かれた施設」にしていきたいと考えています。



「すべての世代が地域で支え合う拠点として」

きた
た
お
お
じ

地域密着型総合ケアセンター きたおおじ

施設長 山田 尋志

地域密着型総合ケアセンターきたおおじは、平成 24 年 8 月に、大徳寺塔頭芳春院の敷地をお借りして開設しました。

地域サロンでは、地域の皆さんと地元の学生さんたちが打ち合わせを重ね、学生さんによる一人暮らしのお年寄りを訪問してくれることになりました。

出かけるところがないなどのために、自宅で引きこもりがちになった方々に、是非サロンに来ていただければと思っています。

小規模多機能のリビングやサロンには、お向かいの保育園の子どもたちもきてくれますし、4 月から毎日ではありませんが、ボランティアの方々による喫茶が開店している日もあり、地域の皆さんにご利用いただいています。

少し介護が必要になれば小規模多機能や短期入所などもご利用いただき、どうしても自宅で住み続けることができなくなれば、サービス付き高齢者住宅

<施設概要>

施設名	地域密着型総合ケアセンター	きたおおじ
管理者	山田 尋志	
開設日	平成 24 年 8 月 1 日	
所在地	〒 603 - 8231	
	京都市北区紫野大徳寺町 49 - 3	
電話	075 - 366 - 8025	
FAX	075 - 366 - 3006	
事業内容	○地域密着型特別養護老人ホーム 29 名 ○短期入所生活介護 10 名 ○小規模多機能居宅介護 25 名 ○サービス付き高齢者住宅 6 名 ○地域サロン	

や特養に移り住んでいただける、そして、特養に入居されても、職員や地域の皆さんは、お元気にサロンに通っておられた頃から知っている、そのようによく知った人々に囲まれて、平穏な高齢期を最後まで支えられる拠点になればと考えています。



地域の他の介護施設や事業所、お医者さんたち、そして地元の商店街の皆さんなどとの連携も、日に日に強まってきており、地域とのいろいろなつながり

りや協同を進めていく拠点にもなることも目標のひとつです。



「自立の方から要介護の方まで幅広い方々がご利用可能な施設」

い
ず
み

地域密着型特別養護老人ホーム いずみ

施設長 高田 正

この度、平成 24 年 9 月 1 日に「社会福祉法人伏見にちりん福祉会」の 3 つ目の拠点として開設致しました。



当法人は、平成 12 年に「特別養護老人ホーム 淀の里」の開設以降、地域に根ざす施設を目指し、平成 17 年に「ケアハウス西院」、今回「いずみ」の開設に至りました。

「いずみ」は、地域密着型特養、ショートステイ、ケアハウス（特定施設）とあらゆるニーズにこたえられることができる施設となっております。



<施設概要>

施設名	地域密着型特別養護老人ホーム	いずみ
施設長	高田 正	
管理者	高田 正（特養）	
	北井 いづみ	
	(ケアハウス・ショート)	
所在地	〒 613 - 0916	
	京都市伏見区淀美豆町 283 番地	
電話	075 - 633 - 5995	
FAX	075 - 633 - 5990	
事業内容	地域密着型介護老人福祉施設 29 名 (3 ユニット) 短期入所生活介護 10 名 (1 ユニット) ケアハウス 20 名 (特定施設入居者生活介護)	

施設の周囲は、住宅街と田畑に囲まれ、地域の皆様にも、ご利用者様・ご家族様にも親しみやすい場所にあります。

施設内は、ユニット毎に玄関を設け、食堂を中心に居室を配置し、プライバシーを配慮した全室個室、全室にトイレ・洗面を完備しておりますので、ゆっくりとくつろげる環境の中で安心して生活していただけます。



共同スペースのリビングや食堂では、他者との関わりを感じられ、自分の家にいるような気持ちで気軽にお過ごしいただけるように支援を行っています。また、ユニット毎に出来るだけ職員を固定し、馴染みのご利用者様と職員と一緒に食事やテレビ鑑賞をするなど家族のような、安心感のある生活を提供いたします。

今後も「いのち」の尊さを見つめ続けて…という法人創立理念を忘れることなく、施設をご利用頂く皆様、一人ひとりが“人が人らしく輝きながら生活して頂けるよう”個々を大事に心温まるサービスを心掛け、高齢者福祉に取り組んでまいります。皆様の更なるご指導ご鞭撻の程、宜しくお願い致します。